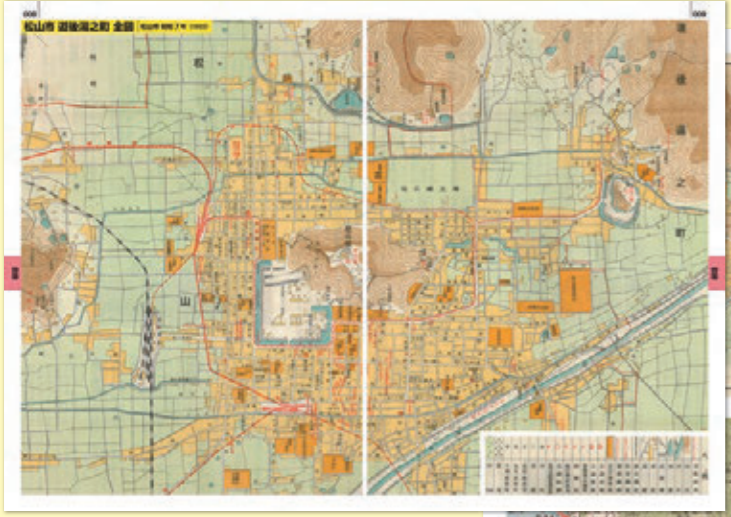


北海道から沖縄まで、全国各都市の古地図をまとめた本邦初の地図集!

旧町名、廃線前の鉄道・市電、暗渠の前の川、映画館、街中の店舗、学校、官公署、地域の産業・工場……
いずれも昭和初期、市民生活の基盤が記録されている貴重な古・市街地図集成!

松山市(昭和7年/1932年)



▲「都市地図」中心部



同時代の広域地図



著者の解説

特色

- 1.昭和が始まった100年前に、各地方で民間により作製された貴重な「都市地図」から、震災や戦災、その後の急速な開発などで変貌した各都市の痕跡をたどる「古地図集成」。掲載した地図は今尾氏の秘蔵コレクション。
- 2.本書の「都市地図」の特徴は、官製地形図では表記されない旧町名、旧道、廃線前の鉄道、映画館、各種の商店などかつての市民の生活基盤が記録されており、全国レベルで揃えたものは本邦初。
- 3.全国100の都市ごとに解説・現代図等を付し、今昔の対比ができるよう編集。

都市ごとの主な構成 ①「都市地図」(中心部・全体)、②同時代の広域地図(20万分の1)、③平成の地形図(5万分の1)、④ベストセラー地図研究家の今尾恵介氏の解説。

- 4.近現代重視の「歴史」、高校で必修になった「地理」、「地方創生」など、現代の研究・学習課題の資料として必須。
- 5.各「都市地図」は地元書店から発行されたものも多く、生活者の利便に資していた。



今尾恵介(いまおけいすけ)
1959年生まれ。地図研究者、エッセイスト。一般財団法人日本地図センター客員研究員。日本地図学会評議員。「地図と地名」専門部会主査。日野市郷土資料館協議会委員。累計100万部以上の大ヒット「日本鉄道旅行地図帳 全線全駅全廃線」シリーズ(新潮社)で監修を務めた。テレビ番組「タモリ倶楽部」には何度も出演。近著、「地図帳の深読み」シリーズ(帝国書院)、「地図記号のひみつ」(中公新書)、「地図で読む昭和の日本」(白水社)など、多数。

体裁:A4判上製/456頁/市街図総数100 地図総数256
●定価19,800円(税込)(本体18,000円)

読者対象 地方史研究者、地方自治体、地方創生担当、歴史・地理研究者や教諭、中学校・高校図書館、公共図書館等

好評既刊
日本200年地図
伊能図から現代図まで
全国130都市の歴史をたどる
監修:今尾恵介
体裁:A4判上製/560頁
●定価10,120円(税込)(本体9200円)

日本地図学会賞受賞!

日本の都市100年地図

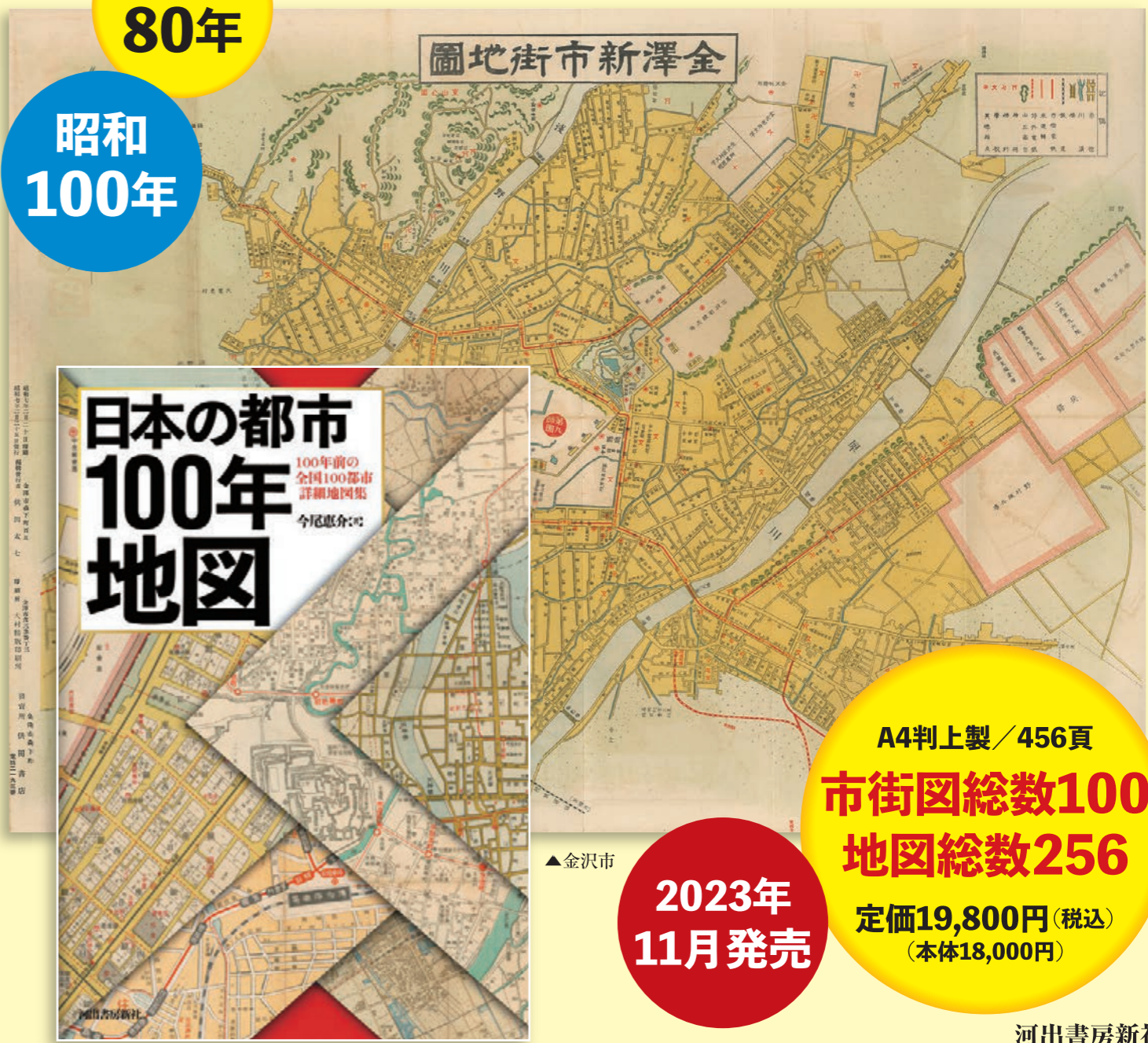
100年前の全国100都市詳細地図集
今尾恵介 著

関東大震災
100年

戦後
80年

昭和
100年

昭和が始まってからおよそ100年、震災や戦災、その後の急速な開発などで変貌した各都市の原型、そこに刻まれた市民生活の記憶がここに――



▲金沢市

2023年
11月発売

A4判上製/456頁
市街図総数100
地図総数256
定価19,800円(税込)
(本体18,000円)

河出書房新社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 TEL03-3404-1201 FAX03-3404-0338

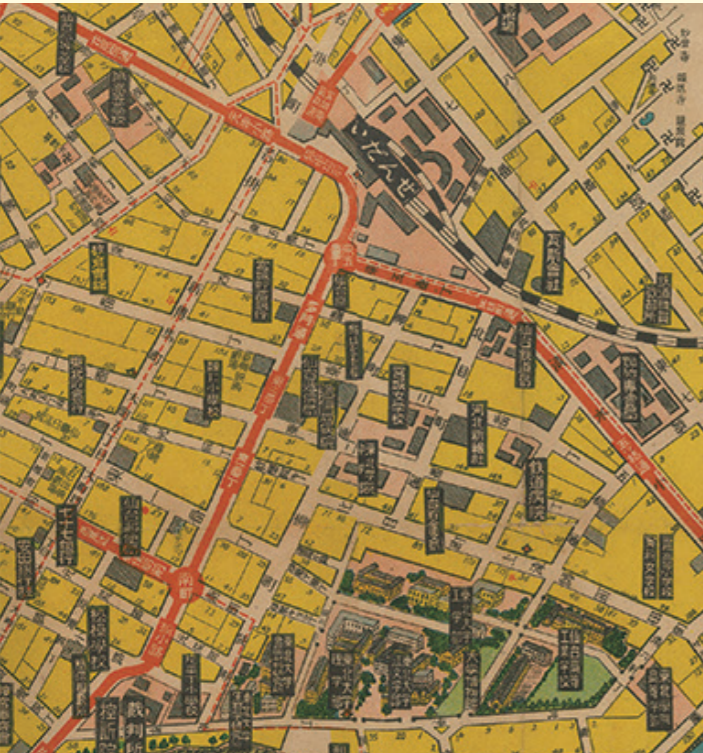
ご注文数	日本の都市 100年地図 ●定価19,800円(税込)(本体18,000円) ISBN978-4-309-22898-3 2023年11月発売予定	お申し込み *お近くの書店にお申し込みください。
	日本200年地図 ●定価10,120円(税込)(本体9200円) ISBN978-4-309-22749-8 好評発売中	
お名前	お電話	
ご住所		

河出書房新社

昭和がはじまった100年前、残された貴重な古地図から各都市の記憶を辿る

全国47都道府県・100都市

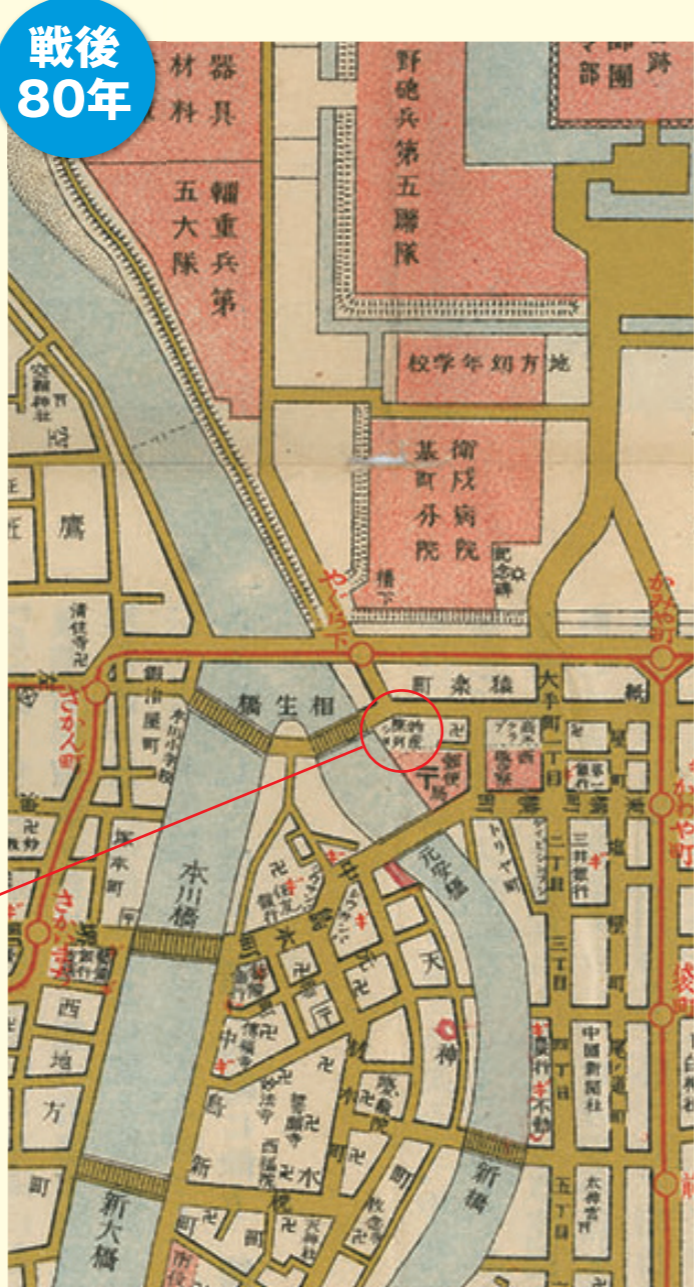
- | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|--|--|---|---|
| <p>■北海道</p> <p>鶴岡市(昭和23)</p> <p>札幌市(昭和12)</p> <p>小樽市(昭和11)</p> <p>函館市(大正11)</p> <p>旭川市(昭和17)</p> | <p>■東北</p> <p>青森市(大正15)</p> <p>弘前市(大正9)</p> <p>盛岡市(昭和3)</p> <p>仙台市(昭和15)</p> <p>秋田市(大正13)</p> <p>山形市(昭和12)</p> | <p>■関東</p> <p>水戸市(昭和7)</p> <p>宇都宮市(大正6)</p> <p>前橋市(昭和14)</p> <p>高崎市(大正15)</p> | <p>■中部</p> <p>新潟市(昭和11)</p> <p>長岡市(昭和11)</p> <p>高田市(上越市)(大正4)</p> <p>富山市(昭和13)</p> <p>高岡市(昭和7)</p> <p>金沢市(昭和7)</p> <p>福井市(昭和12)</p> <p>甲府市(昭和14)</p> <p>長野市(昭和4)</p> <p>松本市(昭和9)</p> <p>上田市(大正10)</p> | <p>■近畿</p> <p>津市(昭和11)</p> <p>宇治山田市(伊勢市)(昭和14)</p> <p>大津市(昭和11)</p> <p>京都市(昭和12)</p> <p>大阪市(昭和12)</p> <p>堺市(昭和15)</p> <p>神戸市(昭和11)</p> <p>姫路市(昭和6)</p> <p>奈良市(昭和7)</p> <p>郡山市(大和郡山市)(大正12)</p> <p>和歌山市(昭和6)</p> | <p>■中国</p> <p>鳥取市(昭和12)</p> <p>米子市(昭和2)</p> <p>松江市(昭和7)</p> <p>岡山市(昭和8)</p> <p>津山市(昭和11)</p> <p>広島市(大正14)</p> <p>呉市(昭和10)</p> <p>福山市(昭和5)</p> <p>山口市(昭和6)</p> <p>下関市(昭和6)</p> <p>萩町(萩市)(大正5)</p> | <p>■四国</p> <p>徳島市(昭和6)</p> <p>高松市(昭和10)</p> <p>松山市(昭和7)</p> <p>宇和島市(昭和11)</p> <p>高知市(昭和10)</p> | <p>■九州・沖縄</p> <p>小倉市(北九州市)(昭和15)</p> <p>門司市(北九州市)(大正15)</p> <p>八幡市(北九州市)(大正11)</p> <p>福岡市(昭和11)</p> <p>久留米市(大正10)</p> | <p>佐賀市(昭和2)</p> <p>長崎市(昭和2)</p> <p>佐世保市(昭和6)</p> <p>熊本市(昭和5)</p> <p>大分市(昭和12)</p> <p>別府市(昭和9)</p> <p>佐伯町(佐伯市)(昭和4)</p> <p>宮崎市(昭和2)</p> <p>延岡市(昭和11)</p> <p>鹿児島市(昭和3)</p> <p>那覇市(昭和4)</p> <p>*赤字は主都市</p> |
|--|--|---|---|---|--|--|---|---|



仙台市(昭和15年/1940年) 伊達藩62万石の城下町として発達した仙台には、明治に入っても東北地方の中心都市として行政、軍事、教育など各分野の重要施設が置かれた。



神戸市(昭和13年/1938年) 明治期から多くの外国人が暮らし、国際的な雰囲気が漂う。地名のローマ字併記は神戸市街図の定番。現在とは埋立による海岸線の変化が大きい。



広島市(大正14年/1925年) 相生橋の東側たもとにある「物産陳列ショ」とあるのが現在の「原爆ドーム」。北側の広島城は陸軍第5師団司令部。

本書は今から100年前、この大正後期から昭和初期の「都市地図」を、全都道府県をくまなく掲載したものである。……時代は、第1次世界大戦を契機に「新中間層」が増加し、通勤通学と観光への需要が大幅に増えて交通が飛躍的に拡大、関東大震災後の復興の勢いは大きく、人口も増え、産業も発達した。まだ日中戦争に突入する前の穏やかな一時代、地図に込められた民衆の生活の痕跡を追う――

掲載した全都市で、約100年前の「都市地図」(中心部・全体)と合わせて、当時の広域地図(20万分の1)、および平成の地形図(5万分の1)、今尾恵介氏の詳細解説を付し、往時の都市・街と比較する。



関東大震災100年

横浜市(昭和10年/1935年) 関東大震災により横浜の市街地はその多くを焼失した。相模湾の震源に近かったため家屋の全壊率も高く、人口あたりの被害は東京よりはるかに深刻だったのである。大量に発生した瓦礫を海岸に埋め立てて造成されたのが山下公園で、そこを舞台に昭和10年に「復興記念横浜大博覧会」が開催された。今では観光スポットとなっている赤煉瓦倉庫群へは桜木町駅付近から貨物線が何本も延びており、その一角に設けられた横浜港駅には外国航路出航の日に合わせて東京駅からポートレインが運転されていた。

